

高 知 県

(高知県農業技術センター発生子察担当 岡美佐子)

1. 新病害虫の発生**(1) ビワキジラミ (令和5年5月25日特殊報)**

令和5年4月、県東部の民家に植栽されたビワの果実や葉にすす症状が発生した。被害部位にはキジラミ類と思われる成幼虫が寄生していたことから神戸植物防疫所に同定を依頼した結果、本県では未発生のビワキジラミであることが確認された。

(2) トマトキバガ (令和5年7月14日特殊報)

令和5年6月、県中央部の施設トマトほ場周辺に設置したトマトキバガの侵入警戒トラップにおいてトマトキバガ疑義成虫が誘殺された。誘殺された成虫を神戸植物防疫所に同定依頼した結果、本県では未発生のトマトキバガであることが確認された。

(3) フシダニ科の一種(ニラフシダニ(仮称)) (令和5年12月22日特殊報)

令和5年11月、県中央部の施設ニらほ場において、ニラの葉に水疱症状や葉身の一部が湾曲する被害が発生した。被害部位や葉鞘部にはフシダニ類の寄生が見られたことから神戸植物防疫所、法政大学植物医科学センターに同定を依頼した結果、本種は令和4年に栃木県で、令和5年に熊本県で発生が確認された新種のフシダニと同一の種であることが確認された。

2. 水稻**(1) もみ枯細菌病**

早期稲の育苗期間に発生が見られた。健全苗の不足により、一部で移植時期の遅れが見られたが、本田での発生は見られなかった。

(2) 葉いもち

5月の早期稲での発生は平年よりも少なかったが、梅雨入りが5月29日と平年よりも早く曇雨天日が多かったことから、早期稲、普通期稲ともに発生が増加し、7月の発生面積は県下全域で平年の1.4倍となった。普通期稲の常発ほ場ではずり込み被害も見られた。

(3) 穂いもち

早期稲では平年並、普通期稲ではやや少ない発生であった。

(4) 紋枯病

平年と同様に、早期稲では7月に、普通期稲では7月以降に発生が見られた。いずれも平年よりも多い発生であり、一部では発病程度の高いほ場も見られた。

(5) ごま葉枯病

早期稲では7月に、普通期稲では平年よりも早く6月から発生が見られた。発生面積は早期稲では平年に比べ多く、普通期稲では平年並であったが、普通期稲の一部では穂枯れが見られた。

(6) 稲こうじ病

早期稲での発生は見られなかった。普通期稲では8月から山間部の常発ほ場を中心に発生が見られた。

(7) トビイロウンカ

早期稲、普通期稲ともに7月に初発を確認した。早期稲の発生面積は平年の約8.1倍と多かったことから8月2日に技術情報を発表した。8~9月の普通期稲では寄生株がわずかに見られたのみで、坪枯れ被害は見られなかった。

(8) 斑点米カメムシ類

出穂期の調査では、早期稲、普通期稲ともに平年よりもやが多い発生であり、早期稲では7月14日に、普通期稲では8月25日に注意報を発表した。主な発生種はイネカメムシ、クモヘリカメムシ、ホソハリカメムシ等であり、近年、イネカメムシの捕獲頭数が増加している。

3. 果樹 (カンキツ類)**(1) そうか病**

温州ミカン、中晩柑類ともに、越冬病斑が多かったことから新葉での発生が多く見られた。6月以降の果実での発生は、本病に対する感受性が高い温州ミカンでは平年よりも多かった。中晩柑類では平年よりも少ない発生であった。

(2) 黒点病

5月の新葉での発生は温州ミカンで平年と比べ多く、中晩柑類では平年並であった。6月以降の果実での発生はいずれも概ね平年並であった。

(3) かいよう病

中晩柑類で平年よりやや遅い 6 月から発生が見られたが平年と比べ発生面積は少なく、発病程度も低かった。

(4) ミカンハダニ

作期を通して発生が見られたが、概ね平年並であった。

(5) アブラムシ類

平年と比べ多発生で推移し、特に 9 月に発生が多く見られた。

4. 野菜**(1) 冬春キュウリ・うどんこ病**

栽培初期から発生が見られ、発生面積は平年と比べやや多かったが、2 月以降は平年並で推移した。

(2) 冬春キュウリ・べと病

栽培初期から発生が見られ、作期を通して発生面積は平年よりもやや多く、発病葉率は 11 月以降平年の約 2 倍と高い状態で推移した。

(3) 冬春キュウリ・つる枯病

11 月から発生が見られた。1 月以降、発病株は増加傾向で推移し、平年よりやや多い発生であった。

(4) 冬春キュウリ・黄化えそ病

栽培初期から発生が見られた。栽培期間を通して発病株は徐々に増加し、4 月の発生面積は平年よりやや多となった。

(5) 冬春キュウリ・退緑黄化病

11 月から発生が見られた。1 月に発生ほ場が急激に増加し、2 月以降は既発ほ場を中心に発病株が増加し、平年を大きく上回る発生となった。

(6) 冬春キュウリ・ミナミキイロアザミウマ

栽培初期から発生が見られたが、平年よりもやや少ない発生であった。

(7) 冬春キュウリ・タバココナジラミ

栽培初期から、低密度ながら広く発生が見られた。低温期には発生面積、寄生葉率ともに減少したが、3 月以降増加し、平年よりもやや多い発生となった。

(8) 冬春キュウリ・ハスモンヨトウ

栽培初期から発生が見られた。発生は概ね平年並であったが、例年発生が少ない低温期にも断続的に食葉被害が確認された。

(9) 冬春ナス・青枯病

主に県東部で発生が見られたが、平年と比べ発生面積は少なく、発病株率も低かった。

(10) 冬春ナス・灰色かび病

平年よりもやや遅い 11 月から発生が見られ、発生面積、発病果率ともに平年を大きく上回った。

(11) 冬春ナス・すすかび病

平年よりもやや遅い 11 月から発生が見られた。栽培期間を通して発生面積は平年と比べ少～やや少なく推移した。発病程度は 2 月までは平年よりもかなり低く推移したが、3 月以降は平年並であった。

(12) 冬春ナス・黒枯病

栽培初期から発生が見られたものの、発生面積、発病程度ともに概ね平年並であった。

(13) 冬春ナス・うどんこ病

栽培初期から低温期の発生は平年より少なかった。5 月に発病株が急激に増加したが、発病程度は低かった。

(14) 冬春ナス・ハスモンヨトウ

栽培初期の発生面積は平年よりもやや多く、被害株率も高かったが、気温の低下とともに発生は減少し、12 月以降の発生はほとんど見られなかった。

(15) 冬春ナス・ミナミキイロアザミウマ

栽培初期から発生が見られたが、平年と比べやや少ない発生であった。その後発生はさらに減少し、4 月以降の発生はほとんど見られなかった。

(16) 冬春ナス・アブラムシ類

栽培初期から継続して発生が見られたが、平年並の発生であった。

(17) 冬春ナス・タバココナジラミ

栽培期間を通じて発生面積は概ね平年並、発生程度は平年より低く推移した。

(18) 冬春ピーマン・うどんこ病

栽培期間を通じて発生が見られ、発生面積は概ね平年並であった。

(19) 冬春ピーマン・斑点病

概ね平年並の発生であった。

(20) 冬春ピーマン・黒枯病

栽培初期から発生が見られた。12 月に発生面積が平年よりも多くなったが、発病程度の高いほ場は見られなかった。

(21) 冬春ピーマン・ハスモンヨトウ

栽培初期から発生が見られ、発生面積は栽培期間を通して平年よりもやや多かった。

(22) 冬春ピーマン・ミナミキイロアザミウマ

栽培初期から発生が見られた。天敵の定着が遅れたほ場を中心に発生が増加し、全般的には平年よりもやや多い発生であった。

(23) 冬春ピーマン・ヒラズハナアザミウマ

栽培初期から発生が見られた。発生面積は平年よりもやや多く、一部では寄生密度の高いほ場も確認された。

(24) 冬春ピーマン・アブラムシ類

栽培初期から発生が見られた。栽培期間を通して増減を繰り返したものの概ね平年並の発生であった。

(25) 冬春ピーマン・タバココナジラミ

栽培期間を通して発生面積は概ね平年並、寄生葉率は平年よりも低く推移した。

(26) 冬春トマト・灰色かび病

平年よりも発生は遅く、3月に被害果の発生が確認された。4月には果実腐敗だけでなく茎枯れ被害も発生する等、発生面積は平年よりも多くなった。

(27) 冬春トマト・葉かび病

12月から発生が見られた。春先までは軽微な病斑が見られたのみで、発生面積は平年以下、発病程度は平年より低く推移したが、4月には発病株が急激に増加し、発生面積は平年よりもやや多く、発病程度は平年並となった。

(28) 冬春トマト・すすかび病

栽培初期から発生が見られ、栽培期間を通して発生面積は平年よりも多く推移した。発病程度は平年と比べ高かったが、下位葉にわずかに病斑が見られる程度であった。

(29) 冬春トマト・黄化葉巻病

栽培初期から発生が見られた。発生面積は概ね平年並であったが、低温期に既発ほ場で発病株の増加が見られたことから、4月時点の発病株率は平年の2倍以上となった。

(30) 冬春トマト・タバココナジラミ

作期を通じて発生が見られた。発生面積は平年よりも多かったが、寄生密度は平年と比べ低かった。

令和5年度 主要病害虫発生状況(高知県)

作物名・作付け面 (ha) 病害虫名	発生面積 (ha)	摘要	作物名・作付け面 (ha) 病害虫名	発生面積 (ha)	摘要
早期水稲 (6,010)			施設キュウリ (114)		
いもち病 (葉いもち)	1,396	多	うどんこ病	77	並
いもち病 (穂いもち)	518	並	べと病	104	やや多
紋枯病	465	多	つる枯病	51	やや多
ごま葉枯病	731	多	黄化えそ病	74	やや多
もみ枯細菌病(育苗期)	222	多	退緑黄化病	45	多
ツマグロヨコバイ	633	やや多	ミナミキイロアザミウマ	75	やや少
セジロウンカ	831	多	タバココナジラミ	79	やや多
トビイロウンカ	28	多	ハスモンヨトウ	11	並
コブノメイガ	18	少	アブラムシ類	9	多
フタオビコヤガ	12	やや少			
イネミズゾウムシ	1,597	やや少	施設ナス (264)		
斑点米カメムシ類	5,178	やや多	青枯病	9	少
アザミウマ類	1,440	少	灰色かび病	62	多
スクミリンゴガイ	2,492	並	すすかび病	177	やや少
			黒枯病	177	並
普通期水稲 (4,750)			うどんこ病	62	やや少
いもち病 (苗いもち)	8	多	ハスモンヨトウ	86	やや多
いもち病 (葉いもち)	2,310	やや多	ミナミキイロアザミウマ	91	やや少
いもち病 (穂いもち)	642	やや少	アブラムシ類	21	並
紋枯病	550	多	タバココナジラミ	237	並
ごま葉枯病	3,611	並	ハダニ類	22	少
稲こうじ病	1,334	並			
ツマグロヨコバイ	531	多	施設ピーマン (シシトウ含む) (87)		
セジロウンカ	660	やや少	うどんこ病	66	並
トビイロウンカ	72	少	斑点病	52	並
コブノメイガ	122	少	黒枯病	24	並
フタオビコヤガ	0	—	ハスモンヨトウ	36	多
イネミズゾウムシ	466	少	ミナミキイロアザミウマ	49	やや多
斑点米カメムシ類	4,219	やや多	ヒラズハナアザミウマ	62	やや多
スクミリンゴガイ	778	並	アブラムシ類	35	並
			タバココナジラミ	84	並
カンキツ (1,684)			施設トマト (32)		
そうか病	236	並	うどんこ病	18	多
黒点病	1,574	並	灰色かび病	11	多
かいよう病	64	少	葉かび病	14	やや多
ミカンハダニ	1,059	並	すすかび病	18	多
アブラムシ類	462	多	黄化葉巻病	13	並
カメムシ類	49	並	タバココナジラミ	14	多